



淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.80 2017年12月発行

〈会員の窓 47〉

「淀川総合研究」について

石田 裕子

摂南大学では、2014年度より、産業・政治行政から、歴史文化、自然環境および都市インフラ、福祉保健にまで対応できる総合大学の幅の広さを活かした「総合研究」の枠組みを作ることを目的とした「北河内地域総合研究」プロジェクトが開始されました。この北河内総合研究を発展した形で、2017年度より「淀川水系に関する総合的研究—多様性に基づく発展ダイナミクスの探求」というプロジェクト（通称「淀川総合研究」）が、全学部の15名の教員でスタートしました。大きな目的として、淀川水系の経済や文化の多様性を基礎に、創造性を育み、インクルーシブ（マイノリティーや弱者を排除しない）な地域社会発展への政策的含意を、文系理系の総合チームが3年程度かけて明らかにすることとしています。私は、サブグループの「淀川水系・環境」という立場で参加させていただくことになりました。

1年目の今年度は、ブレインストーミングとして、各教員が流域内の各地（主に北河内地域）で取り組んでいる地域研究に関する勉強会をしています。全く分野の異なる研究のお話（交野の神社の歴史、交野のある地区での健康プロジェクト、北河内地域の産業の推移等々）はおもしろいのですが、最終的に淀川水系の総合研究としてどうまとめるのかはまだまだこれからです。個人的には、歴史や文化という視点で文理融合できるのではないかと考えています。また、プロジェクトメンバーを対象としたフィールドワークとして、三川合流域から天満橋・八軒家浜までの舟下りを今後企画しています。

12月25日（月）17時から摂南大学にて、「水都史から見たヴェネツィアと東京の比較論」というテーマで、陣内秀信・法政大教授による公開研究会を開催します。こちらは学外にも公開されますので、ご関心のある方はご参加いただければと思います。

淀川に関する最近の動向として、国交省、沿川自治体、鉄道・舟運会社などの民間企業、NPO、市民団体などが集まった「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」が2017年度に立ち上がりました。淀川での舟運復活も含めて、広域連携事業や情報発信を沿川からするものです。東海道は五十三次ではなく、伏見・淀・枚方・守口の京街道四宿を加えて五十七次だったそうです。沿川では京街道を盛り上げる様々な取り組みをしています。この淀川沿いに立地する摂南大学の「淀川総合研究」が、今後このプラットフォームに関わっていただければいいなと思っています。

（淀川愛好会総務・摂南大学理工学部都市環境工学科 准教授）

イベント案内

（詳細は3～4ページ）

淀川愛好会 総会・新年会2018

日時：2018年1月6日（土）18:00～20:00 場所：酒処かつみ

第2回 近畿河川フォーラム 兼 第20回 淀川討論会

日時：2018年2月24日（土）14:00～19:00 場所：摂南大学寝屋川キャンパススカイラウンジ

イベント報告

山新池 アリゲーターガー捕獲大作戦

9月16日(土)に寝屋川市の太秦2号公園内の山新池で、第2回寝屋川再生ワークショップが開かれました。学生班は今年の7月に山新池で発見された世界最大級の淡水魚、アリゲーターガーを捕獲するため、雨の中地曳網を行いました。残念ながら捕獲成功には至りませんでした。後日、11月2日(木)～11月4日(土)の3日間に渡り、テレビ東京「緊急SOS!池の水ぜんぶ抜く大作戦」の協力の元、タレントの的場浩司さんと静岡大学の加藤英明先生と共にアリゲーターガー捕獲のリベンジを行いました。2日(木)にスイレンを100トン刈り取り、3日(金・祝)にタモ網や地曳網を用いて捕獲作戦が行われました。私が参加した3日(金・祝)にはキバラガメやウシガエルなどの外来種は捕獲できましたが、目的のアリゲーターガーを捕獲することはできませんでした。しかし、4日(土)に加藤英明先生と学生の活躍により、体長1メートル以上のアリゲーターガーを1匹、体長約70センチのロングノーズガーを1匹捕獲することに成功しました。当日、現場に居合わせる事ができなかったのは少し残念でしたが、池の生態環境を改善する良いきっかけになったと感じました。この3日間の様子は11月26日(日)に放送されました。さらに、12月2日(土)～12月3日(日)に、まだ池の中に潜んでいる残りのアリゲーターガー捕獲作戦が行われました。その様子は2018年1月2日(火)に放送予定ですので、是非ご覧ください。(F・S)



第7回 川の恵みを活かすフォーラム

10月14日(土)と15日(日)に、京都大学宇治川オープンラボラトリーで川の恵みを活かすフォーラムが開催されました。初日はシンポジウムが行われ、アユの産卵場を造るため活動されている新村安雄さんの講演を聴いたり、淀川水系の川で活動されている様々な団体や漁業関係者の方々の報告を聴きました。私(福島)もアユの卒業研究を引き継いだ身として、前年度の竹内さん、山田さんの研究結果を発表させていただきました。アユについての様々な濃い話を聞くことができたのは初めての経験で、それぞれの川でアユの遡上を助ける魚道の整備や、産卵場の造成、仔魚調査などが行われていることが分かりました。アユがただの食用魚ではなく、日本の文化に根付いた魚であることを再認識させられました。機会があれば、いつか自分の卒業研究の結果もこのような場で発表できるよう、調査を頑張ります。(F・Y)

二日目は川の恵みを活かす食味会が行われました。鮎味噌や鮎道明寺揚げ、鮎の塩焼きなど、アユの他にもコイやマスなどの川魚も振る舞われました。伏見のお酒4銘柄と鮎料理のマッチングコンテストなども行われました。私はコイを食べるのが初めてで、特有の臭みがするのかなと思いながら食べましたが、まったく臭みはなく、普通の刺身のようにとてもおいしかったです。今回の活動に参加しなければ普段食べることのできない料理を食べることができて貴重な体験になりました。(O・K)

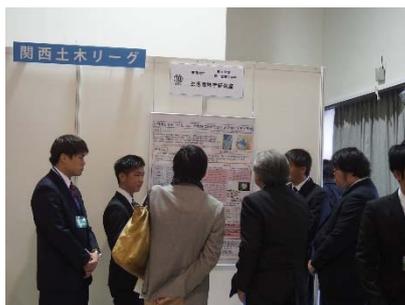
なお、この日には巨椋池ビオトープの氾濫実験デモも行われました。

第6回・第7回 点野水辺づくりワークショップ

11月10日(金)に摂南大学、12月2日(土)に点野野草地区の高水敷にて淀川河川事務所主催の点野水辺づくりワークショップが開かれました。11月10日(金)のワークショップでは、プレック研究所さんが用意してくれた点野砂州の現在の模型と再整備後のイメージ模型を使い現状の把握をし、再整備後をイメージしながら話し合いました。主な話題として、再整備後の点野砂州をいろんな市民の方々に利用していただくための案が沢山出ました。点野砂州の近くに簡易式のトイレではなく女性の方も利用しやすいトイレを設置する案などがあり、私もきれいなトイレがあれば利用者が増えると思うので良い案だと思います。続いて、12月2日(土)のワークショップでは、点野砂州現地に集まり行きました。このワークショップでは、再整備時に点野砂州の高水敷に見守りの丘を造る事が想定されていて見守りの丘の想定位置に風船を据え付け再整備後のイメージを膨らますことができました。またドローンを飛ばし点野砂州から河川敷全体を見まわることができ上から見た風船の位置で再整備後の風景を想像することができる良いワークショップになりました。(Y・M)

ふれあい土木展 2017

11月10日(金)、11日(土)に、近畿地方整備局近畿技術事務所で「ふれあい土木展2017」が開催されました。その中で私たち生態環境学研究室は、研究室対抗関西土木リーグに参加しました。関西の大学のそれぞれの技術研究がパネルを使って発表する中、私たちは「巨椋池を活用した淀川三川合流域における生態系保全に関する研究」のパネル発表をしました。パネルの前で来場者に研究を説明するのは初めての経験だったのでとても緊張しましたが、来場者の「こんなのができたらいいな。」などの感想をもらい、夢のある研究だなと改めて感じました。自分たちの作成したパネルは特別賞をもらい、表彰されました。表彰をもらえるとは思わなかったのでとてもうれしかったです。(O・K)



クリーンリバー寝屋川作戦・秋

11月12日(日)の午前9時から12時の間、寝屋川市内12ヶ所で清掃活動が行われました。総参加人数は約350人と例年に比べるとやや少なかったですが、全員で協力し合い、空き缶やお菓子の袋などの細かいゴミから鉄パイプやタイヤなどの粗大ゴミの回収、さらにはセイヨウカラシナの駆除をスムーズに行うことができました。今回の清掃活動を通じて、川を綺麗にできて良かったと思う一方、もっと人々が川を綺麗に守っていくという意識改革をしていかなければならないと感じました。(F・S)

茨田樋イチョウ祭り

11月23日(木・祝)に点野・茨田樋遺跡公園でイチョウ祭りが開催されました。秋の実りを楽しみました。また地域の歴史を見つめてきた大イチョウの下に集い、交流を深めました。Eポート乗船体験やヨシ笛づくり体験などがあり市民の方々が楽しんでいました。また、焼きギンナンや防災食のアルファ化米の食味会も行いました。寝屋川市を中心とした各団体の交流がたくさんあり楽しいイベントでした。(Y・M)



今後のイベント詳細

淀川愛好会 総会・新年会 2018

淀川愛好会の総会・新年会を下記のように企画しました。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2018年1月6日(土) 18:00~20:00

場所：酒処かつみ

寝屋川市東大和町4-15

京阪本線 寝屋川市駅から西へ300m

電話番号：072-826-7574

申し込み締め切り：2018年1月5日(金) 事務局まで (参加費 3000円)



第2回 近畿河川フォーラム 兼 第20回 淀川討論会

日時：2018年2月24日（土）14：00～19：00

場所：摂南大学寝屋川キャンパス 11号館 11階スカイラウンジ

プログラム

- 14：00～14：20 開会挨拶 淀川愛好会会長 澤井健二
- 14：20～14：35 河川協力団体全国協議会の動き 山道省三
- 14：35～15：05 国土交通省近畿地方整備局からの情報提供
- 15：15～17：00 報告・意見交換

【テーマ】

- ・異常豪雨対策
- ・山川海をつなぐ問題
- ・河川協力団体制度の活用

- 17：00～17：15 みんなで歌おう 川の歌
- 17：30～19：00 交流会（会費3000円 場所同じ）

主催：近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会

申し込み締め切り：2月10日（土）事務局まで



〈会員の窓 48〉

今までにない経験

宇野 真輝

私は、摂南大学に入学して入りたい部活を考えていたとき、屋外で楽しめる部活がいいと思い、エコシビル部に入部しました。入部当初は、Eボートや侵略的外来植物駆除、ゴミ拾いを時にはしんどいと思いつつも、自分が楽しければそれで充分という気持ちで取り組んでいました。しかし、活動を通じて河川レンジャーや水辺クラブの方の話や、水辺や河川の現状を知ることができました。次第に自分達が行っていることがどのように河川に貢献できているか、河川のために何ができるかという意識を持って活動に取り組むようになっていきました。また、イベントを通じて水辺で遊ぶことの楽しさを改めて実感しました。外来魚釣り大会で数を競い合ったことやEボートに乗って漕いだことは特に印象に残る活動で、部活動を引退してもまた参加したいと思っています。自分達だけでなく地元住民など多くの方々が川に興味を持って楽しんでいるのを見て、水辺で遊ぶことを楽しみながら外来魚といった河川の問題を知ってもらえるような活動が他にたくさんあればと思いました。社会人になってもエコシビル部での経験を活かしていきたいと思っています。

(摂南大学 理工学部 機械工学科 3年生・エコシビル部前副部長)

編集後記

その時私は、ふと「あっ、これだな！」と、思いました。澤井ワールド、「巨椋池流域模型ビオトープ」への先生の思い入れの真意をくみ取ることができました。その日（12月5日）に、巨椋池流域模型ビオトープに関わった人々15名が澤井オフィスに集い、忘年会が開催されました。宇治川流域在住の方からの出水時の防災対策等の話題提供などがあって会は、学会並の様相を呈し、大いに盛り上がりました。宴の終り頃、澤井先生の声かけがあって全員がビオトープへ集合しました。そこでは、大きな貯水タンクからモデル宇治川へ、揚水発動機でポンプアップされた水がモデル桂川と木津川へ流されていました。その景色を眺めている最中にアメリカフウの落葉に埋もれた三川合流点からモデル桂川と木津川の水が下流に流れ切らずに宇治川上流に向かって遡上し始め、あるところでタンクからの放水流と合一し、水嵩が徐々に高まりモデル堤防から溢れ、足下でモデル巨椋池に向けてジワジワと滲出し始めた。その溢水は切り取られた堤の間からモデル巨椋池に流れ込み、池を満たすのだな、と思い、さらに計算し尽くされた水の動きに感動すら覚えました。これが巨椋池の遊水池としての役割だ、と私は思いました。

編集長 相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp